

富山県舟橋村

ふる え び え

古海老江遺跡発掘調査報告

—宅地造成に伴う発掘調査報告—

2002年11月

舟橋村教育委員会



舟橋村 古海老江遺跡調査区全景（東より） 手前に見えるのが細川旧河道

序

舟橋村は、県東部・富山平野のほぼ中央にあつて、緑豊かで
住みよい文化的な都市近郊農村ですが、近年では、立地条件の
良さから宅地開発が進み、人工増加率は、県内トップです。

今回の発掘調査も、民間業者の8区画の宅地分譲事業（本村
古海老江地内）実施に伴うものであります。

調査では、鎌倉時代の建物の一部と細川の河道跡が確認され、
村の古代史を知る上で、貴重な資料となりました。

おわりに、調査実施及び報告書の刊行にあたり、富山県埋蔵
文化財センターをはじめ関係者各位にご援助・ご協力をいただ
きました。

衷心より感謝申し上げます。

平成14年11月

舟橋村教育委員会

教育長 藤 塚 孝 雄

例 言

- 1 本書は、不動産会社による宅地造成工事に伴う古海老江遺跡^{ふるえびえ}の発掘調査報告書である。発掘調査区の所在地は、富山県中新川郡舟橋村古海老江126である。
- 2 発掘調査及び報告書作成は、不動産会社の委託を受け、舟橋村教育委員会が主体となり県埋蔵文化財センターの協力を得て実施した。事務担当及び調査員は下記のとおりである。
事務担当 舟橋村教育委員会 主 査 吉田昭博
調査担当 富山県埋蔵文化財センター 主 任 境 洋子
- 3 調査期間・調査面積及び調査員は以下のとおりである。
調査期間 平成14年4月30日～同年5月30日 調査面積 300m²
- 4 発掘調査及び出土遺物の注記に用いた略号は「HHEB」（HunahasimuraHuruEBie の略）である。
- 5 遺構番号は、種別にかかわらず通し番号を付して、番号の前に種別を表す記号を冠した。使用した記号が表す遺構は、次のとおりである。 SD：溝 SK：土坑（・井戸）
- 6 現地調査及び本書に用いた土層の色名は、小山正忠・竹原秀雄『新版 標準土色帖』に依る。
- 7 発掘調査及び遺物整理・報告書作成にあたった作業員は下記のとおりである。（アイウエオ順）
発掘調査：佐渡早津江・田近道則・田中栄子・多鍋 清・寺崎広行・野越数雄・野越節子・林 陽子・
松井 稔・三鍋愛子・山崎行光・横川美雪
遺物整理・報告書作成：横川美雪
- 8 遺構実測図中にある方位は真北を示し、断面図中の基準線の数字は海拔の高さを表す。
- 9 本書の作成に当たり下記の方々からご指導・助言を得た。記して深謝申し上げる。（敬称略 アイウエオ順）
池田恵子・池野正男・越前慶祐・岡本淳一郎・神保孝造・宮田進一
- 10 本書の執筆・編集は、県埋蔵文化財センター職員の協力を得て境がこれにあたった。
- 11 発掘調査に関する記録資料及び出土遺物は、一括して県埋蔵文化財センターにおいて保管している。

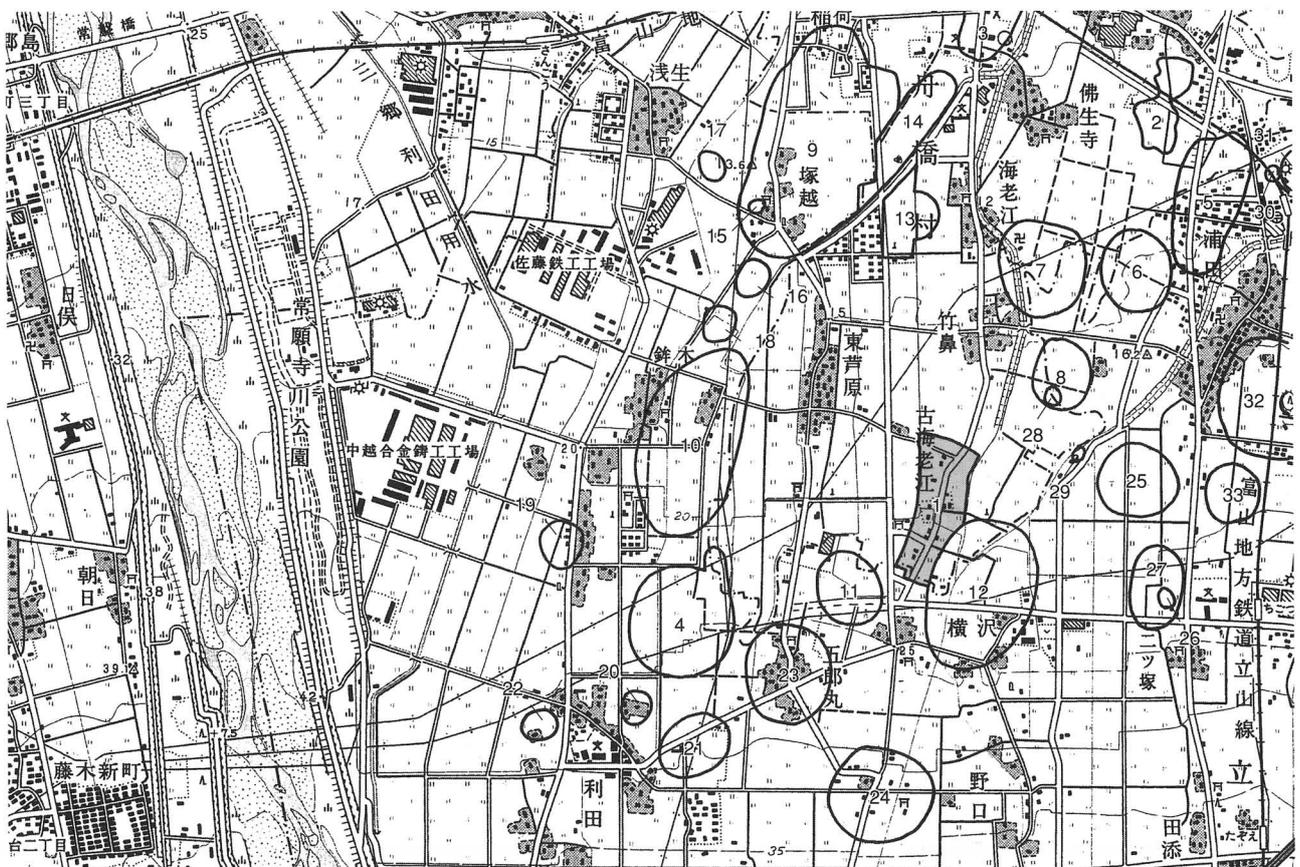
目 次

カラー写真図版	3 遺 物	4
序	IV まとめ	5
例 言	参考文献	6
I 位置と環境	第3図 調査区全体図と基本土層図	7
第1図 古海老江遺跡の位置と周辺の遺跡	第4図 遺構平面実測図	9
II 調査に至る経緯と調査の方法	第5図 遺構断面実測図	10
1 調査に至る経緯	第6図 遺物実測図	11
2 調査の方法	第7図 遺物実測図	12
第2図 発掘調査区の位置と区割	第8図 遺物実測図	13
III 調査の結果	報告書抄録	14
1 層 序	写真図版	
2 遺 構		3

I 位置と環境

古海老江遺跡は、富山県のほぼ中央に位置する舟橋村の南東端に所在する。常願寺川と白岩川により形成された扇状地の微高地上に立地し、現在の標高は18m～21mを測る。周辺には縄文時代～近世にわたる遺跡が多く所在する。東方に約1km離れた段丘上に縄文時代中期を中心とする二ツ塚遺跡（縄文時代早期～後期）が立地することは1970年代後半の発掘調査により知られていたが、平成13年度の竹内東芦原遺跡の発掘調査により縄文時代後期の土器が自然河道から出土した。弥生時代になると、小平遺跡・浦田遺跡・仏生寺城跡で中期～後期にかけての遺物が出土、また同じく竹内東芦原遺跡において後期の集落跡が検出された。古墳時代には周囲2.5km以内に竹内天神堂古墳・塚越古墳・稚児塚古墳が所在し、前期の住居跡が仏生寺城跡・竹内東芦原遺跡で、後期の住居跡が浦田遺跡・竹内東芦原遺跡で検出された。古代では西方600mの利田横枕遺跡において集落跡が確認されている [立山町教育委員会2001]。

今回の発掘調査ではこのような周囲の状況に裏打ちされて、縄文時代～近世にわたる遺物が出土したが、検出した遺構は中世～近世に属する。中世の遺跡としては城館跡として古くから知られている仏生寺城跡がある [舟橋村教育委員会2001]。



- 1 古海老江遺跡
- 2 小平遺跡
- 3 仏生寺城跡
- 4 利田横枕遺跡
- 5 浦田遺跡
- 6 浦田西反遺跡
- 7 浦田馬渡し遺跡
- 8 浦田石田遺跡
- 9 塚越Ⅰ遺跡
- 10 銚ノ木Ⅰ遺跡
- 11 横沢Ⅱ遺跡
- 12 横沢Ⅰ遺跡
- 13 海老江遺跡
- 14 竹内東芦原遺跡
- 15 塚越古墳
- 16 塚越Ⅱ遺跡
- 17 塚越Ⅲ遺跡
- 18 銚ノ木Ⅱ遺跡
- 19 曾我遺跡
- 20 利田堀田遺跡
- 21 利田高見遺跡
- 22 総曲輪遺跡
- 23 五郎丸遺跡
- 24 日水遺跡
- 25 二ツ塚畑田遺跡
- 26 二ツ塚経塚
- 27 二ツ塚遺跡
- 28 大藪塚
- 29 前田経塚
- 30 浦田柳町遺跡
- 31 大明神経塚
- 32 浦田前田遺跡
- 33 若林階子田遺跡

第1図 古海老江遺跡の位置と周辺の遺跡（1：25,000、『富山県埋蔵文化財包蔵地地図』より作成）

Ⅱ 調査に至る経緯と調査の方法

1 調査に至る経緯

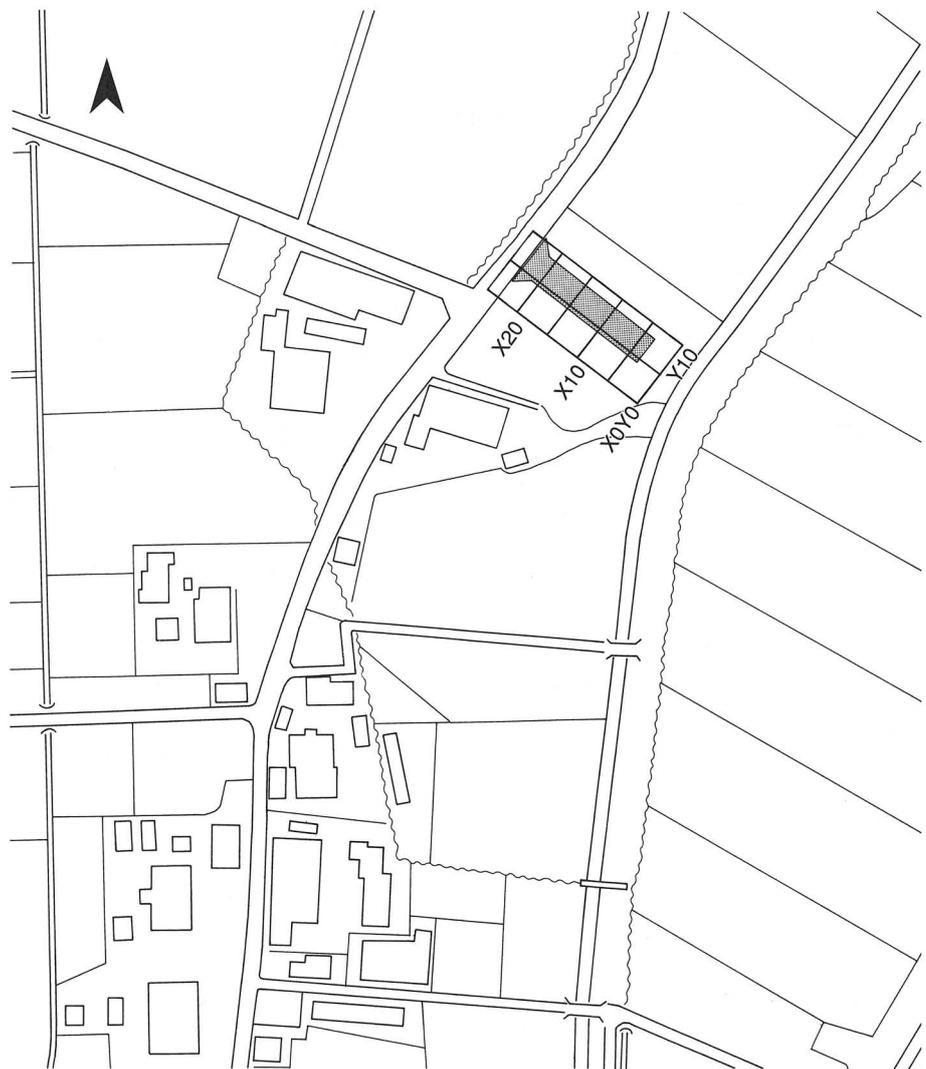
古海老江遺跡の発見は新しく、平成13年度に県埋蔵文化財センターが協力して実施した古海老江地内の分布調査により発見したものである。翌平成14年に今回の調査地区において不動産会社による宅地造成の計画が出されたことから、県埋蔵文化財センターの協力により平成14年3月12日に試掘調査を実施したところ、遺物の出土と遺構の存在を確認するに至った。その結果を検討した上で、不動産会社の協力を得て計画地内の道路部分のみを本発掘調査することとなったものである。本発掘調査の実施にあたっては、事務局を舟橋村教育委員会におき、現地調査に関しては全面的に県埋蔵文化財センターの協力を得た。

調査は、4月30日に表土除去を行い、5月9日より人力による掘削作業を開始し、5月30日をもって完了となった。

2 調査の方法

調査区は分譲住宅地内の道路部分にあたる。現況は休耕田であった。発掘調査にあたっては、まず重機により現在の耕作土である表土を除去した。その後に測量会社に委託して基準杭の設定を行った。グリッドは、調査区が南東方向から北西方向に向かって細長いことから、世界測地系座標には合わせず、調査区方向に合わせて北西方向にX、北東方向にYの座標値が進むように設定した。なお、平成14年4月1日より基準座標が世界測地系座標に変わったため、第3図調査区全体図にはその両方を記した。

グリッドは、10m四方を大区画として設定し、2m四方を最小単位の1区画とし、遺構外から出土した遺物はこの区画ごとに取り上げた。基準杭の設定の後、ベルト・コンベアーは用いず、全て人力により遺構検出・遺構掘削の順で掘削作業を行った。調査区全体の平面図は、水糸で1m間隔のグリッドを現地に設定して調査員が現地作業員と共に実測し、併せて各点の標高も実測・記録した。



第2図 発掘調査区の位置と区割（1：2,000）

Ⅲ 調査の結果

1 層序 (第3図)

調査区の現況は休耕田であり、ほ場整備により削平を受けている。したがって、包含層は既に失われ現水田関連土を除去すると遺構検出面が現れるような状況であった。第1 a層～第1 d層は、現在の水田に関連すると考えられる層、第2層はほ場整備以前の水田に起因する層と見られ調査区東半にしか見られない。第3層は黒色砂質土で、これも調査区東半にしか見られず、細川旧河道の部分に堆積し、厚さ15cm、中世の遺物が出土する。第4層～第7層は細川旧河道の覆土である。第8層以下は中世段階の地山として捉えた。なお、第3図の基本土層図は、全体図中に示した▼の印より東側の調査区壁面の実測図である。

2 遺構

遺構は、鎌倉時代の掘立柱建物のもので一部分と考えられる柱穴と土坑、溝、井戸、中世～近世の井戸、細川旧河道などを検出した。以下、主要なものについて個々に記述する。

(1) 土坑

SK02 SD01の東側に検出した土坑である。規模は検出面において南北・東西長さともに2.3mを測り、最も深い所で18cmを測る。遺物は、中世土師器皿(2・3)・珠洲(5)の他、中世の砥石、古墳時代の土師器片などが出土した。

SK04 楕円形を呈する柱穴と考えられる穴である。検出面での大きさは長軸80cm短軸54cm、最も深い所で深さ44cmを測る。覆土は黒褐色砂質土に黒色砂質土と地山である黄褐色砂土が数cm大のブロックで混じるもので、柱根痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

SK07 SK04と同じく柱穴と考えられる穴である。検出面での大きさは長軸90cm短軸44cm、最も深い所で深さ34cmを測る。覆土は黄褐色砂土と黒色砂質土がブロック状に混ざり合い数cm～10cm大の礫が多量に混入するもので、柱根痕跡は確認できなかった。遺物は出土しなかった。

SK15 平面形が楕円形を呈する穴である。検出面での大きさは長軸72cm短軸44cm、最も深い所で深さ20cmを測る。SD01を掘り進めるうちに検出したが新旧関係は不明である。覆土は黒色砂質土に地山である黄褐色砂土がブロック状に混じるものである。柱穴の可能性はある。

SK05 平面形が正方形を呈する穴である。検出面での大きさは24cm四方、深さは10cmを測る。覆土は黒色砂質土に地山である黄褐色砂土がブロック状に混じるものである。

SK18 SK05と同様の穴である。検出面での大きさは24cm四方、深さは14cmを測る。覆土もSK05と同様。

SK19 SD01の東側、X20Y7において検出した土坑である。平面形は正円に近い楕円形を呈し、大きさは長軸1m短軸90cm、検出面からの深さは36cmを測る。覆土は1層が黒色砂質土、2層が礫混じりの黒色砂土で中世土師器皿(10・11)、珠洲(12)・桃の種が出土した。建物と関連のある井戸跡と考える。

SK14 X22Y6において検出した土坑である。SD01を切っている。楕円形を呈し、大きさは長軸80cm短軸60cm、検出面からの深さは40cmを測る。1層が黒色砂質土に砂土が混じる層、2層がしまりのない黒色砂質土でいずれも礫が混じる。覆土内から珠洲、1層上方から17世紀代の唐津皿口縁部が出土した。帰属時期は室町時代～近

世前半か。

(2) 溝

SD01 X20から調査区外西方に延びる溝である。検出面での幅90～120cm、深さ16cmを測る。覆土は主に黒色砂質土であり、中世の土師器皿・珠洲が出土した。SK14・15と切り合い、SK14の方が新しいが、SK15との新旧関係は不明である。

河道(旧細川) X7以東において検出した自然流路跡である。現在、調査区東側を流れる細川の旧河道と考える。調査区壁の観察から深さは60cmを測る。覆土は第3図に示した4層が細川の最終堆積層になり、それを第①層とした場合、①層：黒色砂質土・②層：黒色砂質土に砂土が混じる層・③層：黒色砂質土と黄褐色砂土(地山)がブロックで混じり合う層(河の肩の崩落土)・④層：黒色砂質土であり、それより下は河床の砂礫層となる。覆土内からは縄文土器・土師器・須恵器・珠洲・箸・曲物側板・木片が出土した。河の帰属時期は13世紀～14世紀代と考える。

SD10 上述河道の西側において、X軸に平行して検出した溝である。調査区壁の観察で中世の堆積土である3層を切っている点から、近世の水路跡と考える。調査区壁の観察では幅1.2m、深さ24cmを測り、覆土は黒褐色砂質土である。

SD22 SD10の西側においてほぼX10のラインに沿って検出した溝である。中世の堆積土である3層より下位にあることから古代以前の溝跡と考えるが、遺物の出土がなく時期は不明。調査区壁の観察では幅2m、深さ30cmを測り、覆土は①層が黒褐色砂質土、②層が灰黄褐色砂質土である。

3 遺物(第6～8図)

出土した遺物には縄文時代から近世にいたるまでのものがある。主体をなす中世の遺物は、特に記述のないものに関しては13世紀代に属する。

(1) 遺構出土の遺物(第6図・第7図21～32)

SD01 (1) 中世土師器皿で非ロクロ成形、推定口径8cm同器高1.5cm、口縁部にタールが付着する。

SK02 (2～5) 2は中世土師器皿、非ロクロ成形で推定口径13cm、3は中世土師器皿、非ロクロ成形で推定口径10.6cm同器高2.5cm、4は珠洲すり鉢口縁部、5は珠洲甕胴部破片。

SK05 (6) 6は珠洲甕胴部破片である。

SK08 (7) 7は須恵器杯の口縁部破片である。遺構の時期は中世であるから混入品であろう。

SK11 (68・69) 製塩土器の破片である。利田横枕遺跡の舟橋村部分で出土した製塩土器に類似しており[舟橋村教委2001]、同時期である古墳時代終末期のものとする。

SK14 (8・9) 8は唐津皿の口縁部で口径15cm、時期は17世紀代前半、9は珠洲甕の口縁部から肩部にかけての破片である。

SK19 (10～12) 10・11は中世土師器皿、10は非ロクロ成形で推定口径9cm、11は非ロクロ成形で推定口径13.6cm、12は珠洲すり鉢破片である。

河道(旧細川) (13～32・70・74) 13～15は箸の断片、16～18は縄文土器、16が八日市新保式期の浅鉢であり、口縁部には一条の沈線を施し一組3個の短隆線の間を連結三叉文で結ぶ痕跡があり、赤彩痕を観察できる。17は深鉢口縁部であり、口縁が外側に肥厚し羽状縄文を施すもので、後期後葉と考える。18は小型の深鉢底部であり、底径5cmでLR縄文を施すもので、時期は中期後葉と考える。19は弥生時代後期の甕口縁部、20は珠洲甕の口縁部から肩部にかけての破片、21が須恵器壺底部、22が須恵器壺底部で外面にケズリ調整を施すもの、23・24は

中世土師器皿でいずれも非ロクロ成形で24は推定口径10.6cm、25・26は珠洲すり鉢であり、26は底径12cm、27～32は珠洲甕胴部破片である。70は古代の内面黒色土器碗の口縁部、74は珠洲甕底部付近の破片である。

(2) 包含層等出土遺物 (第7図33～40・第8図41～64)

33～37は縄文土器、33は八日市新保式期の浅鉢、口縁部の沈線は2条であり三叉文とはならない。34は縄文を施す平縁の深鉢、推定口径26cm、R L R縄文を施すものであり、時期は後期後葉。35は深鉢の口縁部であり外側に肥厚するもの。内面と外面の口縁部分を磨きそれより下に縄文を施す、時期は後期後葉と考える。36は中屋式期の深鉢か壺の肩部破片であり、赤彩痕を観察できる。37は深鉢底部破片で網代圧痕があり、底径7cm、時期は後期～晩期と考える。38は試掘時に出土したものであり弥生時代後期の有孔鉢底部、赤彩痕を観察でき、推定底径4.5cm。39は古墳時代前期の甕口縁部、40は8世紀代の土師器の長胴甕の口縁部。41は須恵器坏で推定口径11cm、42が須恵器の高台付壺の底部、43が須恵器甕口縁部で口径26cm、44・45はともに非ロクロ成形の中世土師器皿、44は推定口径8cm、45は10.7cm。46～48は珠洲すり鉢底部破片、46は底径10cmを測り、時期は13世紀後半～14世紀代、47は底径9cm 48は底径9cm、49は珠洲甕口縁部、50～55は珠洲甕の胴部破片である。56・57は砥石破片、56は幅4.5cm長さ5.5cmで上端・下端ともに破断した状態で再利用している、57は長方形のものの破片で幅3.2cm残存長さ3cmである。58～63は越中瀬戸皿で、58は口径9.5cm、60は12.8cm、61は底径5cm、62は底径5cm、63は口径13cm器高2.6cmである。64は越中瀬戸の壺口縁部で口径12.4cmである。以上と66・67の越中瀬戸はいずれも17世紀代に属すると考える。65は灰釉蛇の目釉ハギ高台部無釉の肥前皿で底径4.8cmである。66・67は越中瀬戸皿でいずれも口径10.8cm器高2.5cmである。71は須恵器甕胴部破片、72は珠洲壺底部付近の破片、73は中世包含層から出土した珠洲甕胴部破片、75・76は八尾甕破片、77は13世紀代白磁皿の底部付近の破片、78は同じく13世紀代の白磁の玉縁の口縁部、79～81は近世のもので、79は口鏤の肥前産と思われる白磁碗の口縁部、80は18世紀代伊万里の碗口縁部、81は伊万里皿である。

IV まとめ

今回の調査では、遺物は少量ながらも縄文時代から近世にいたる幅広い時期のものが出土した。これは周辺に多くの遺跡が立地する同地の状況を裏付けるものとなった。

今回検出した遺構に関しては、その帰属時期は、ほとんどが13世紀代(鎌倉時代)であり、15世紀代まで降ることはないと考えられる。

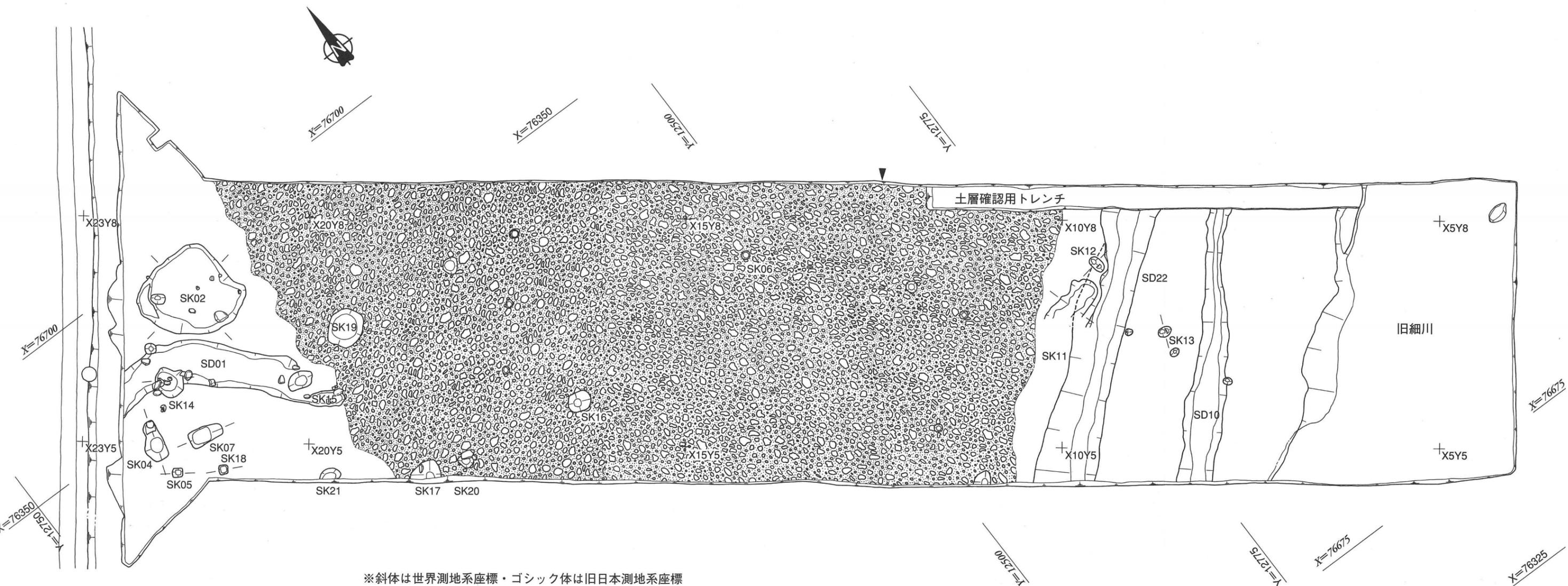
現在の道路側に偏って検出した土坑は掘立柱建物の柱穴とそれに付随する土坑・溝・井戸と考えられ、建物の範囲はこれより西側に広がるものと推測できる。また、現在も細川として存在する河の旧河道からは多くの木片や木製品の破片が出土した。木製品としては掲載した箸の他に曲物側板が多く見られた。この河道は14世紀代には埋没し、おそらくその流れは現在の河道に近い東側に移っていったのであろう。

その後、降って17世紀代の遺物が目立つことから、その時期に再び集落が形成されたと考えられる。

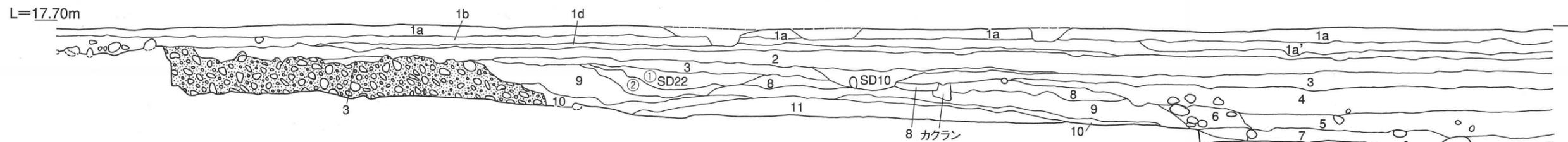
調査範囲に制限があったことから検出した遺構は少なかったが、同地に鎌倉時代の集落跡が存在することが判明した点と、その頃に細川が流れていた位置が確認できた点が調査の成果と言える。

参考文献

- オ 岡本淳一郎 『舟橋村埋蔵文化財調査報告6 富山県舟橋村 利田横枕遺跡発掘調査報告—送電線鉄桶工事に伴う発掘調査報告—』2001年3月 舟橋村教育委員会
- 工 越前慶祐 『舟橋村 塚越Ⅰ遺跡』2000年3月 舟橋村教育委員会
- カ 狩野 睦・酒井重洋 『北陸自動車道遺跡調査報告 朝日町編6 境A遺跡—土器編—』1991年3月 富山県教育委員会
- ク 斎藤 隆・橋本正春 『舟橋村埋蔵文化財調査報告書1 富山県舟橋村 塚越Ⅰ遺跡 第3・4次発掘調査報告書』1997年3月 舟橋村教育委員会
- ク 斎藤 隆・橋本正春 『舟橋村埋蔵文化財調査報告書2 主要地方道立山水橋線道路改良事業に伴う発掘調査報告書 富山県舟橋村 浦田遺跡発掘調査報告書』1998年3月 舟橋村教育委員会
- ク 斎藤 隆・橋本正春 『舟橋村埋蔵文化財調査報告書3 東部団地造成事業に伴う発掘調査報告書 富山県舟橋村 浦田遺跡発掘調査報告書』1998年3月 舟橋村教育委員会
- ク 高梨清志 『富山県舟橋村 仏生寺城跡発掘調査報告』2001年3月 舟橋村教育委員会
- ク 高梨清志 野原大輔 『富山県舟橋村 竹内東芦原遺跡発掘調査報告』2002年3月 舟橋村教育委員会
- マ 増山 仁・田村明美・南 久和 編集 『金沢市新保本町チカモリ遺跡 第4次発掘調査兼土器編』1986年3月 金沢市教育委員会・金沢市埋蔵文化財調査委員会・金沢市新保本町第一土地区画整理組合
- ヨ 吉岡泰暢 『中世須恵器の研究』1994年2月 吉川弘文館



※斜体は世界測地系座標・ゴシック体は旧日本測地系座標



調査区基本土層

- 1a 7.5YR3/2 黒褐色砂質土 (現耕作土)
- 1b 7.5YR3.5/2 黒褐色砂質土 (現水田床土)
- 1c 7.5YR3.5/1+10YR3/1 褐灰色砂質土+黒色砂質土+地山ブロック (ほ場整備の際の盛土、固い)
- 1d 7.5YR3.5/2 黒褐色砂質土 (現水田耕盤、酸化鉄粒目立つ)
- 1a ~ 1d は現水田関連土

- 2 10YR3.5/1 黒褐色砂質土 (旧水田土)
- 3 10YR3.5/1 黒色砂質土 (中世堆積土)
- 4 10YR2/1 黒色砂質土 (旧細川覆土)
- 5 10YR3/1 黒色砂質土+砂土 (旧細川覆土)
- 6 10YR2/1+2.5Y5/3 黒色砂質土ブロック +黄褐色砂質 (地山) ブロック (旧細川覆土)
- 7 10YR2/1 黒色砂質土 (旧細川覆土)
- 8 10YR4/2 灰黄褐色砂質土 (数mm大の小礫混)
- 9 2.5Y5/3 黄褐色砂質土 (数mm大の小礫混)
- 10 2.5Y5.5/1 黄灰色シルト (炭化物粒混)
- 11 2.5Y5.5/3 黄褐色砂質土 (粗砂)

SD22

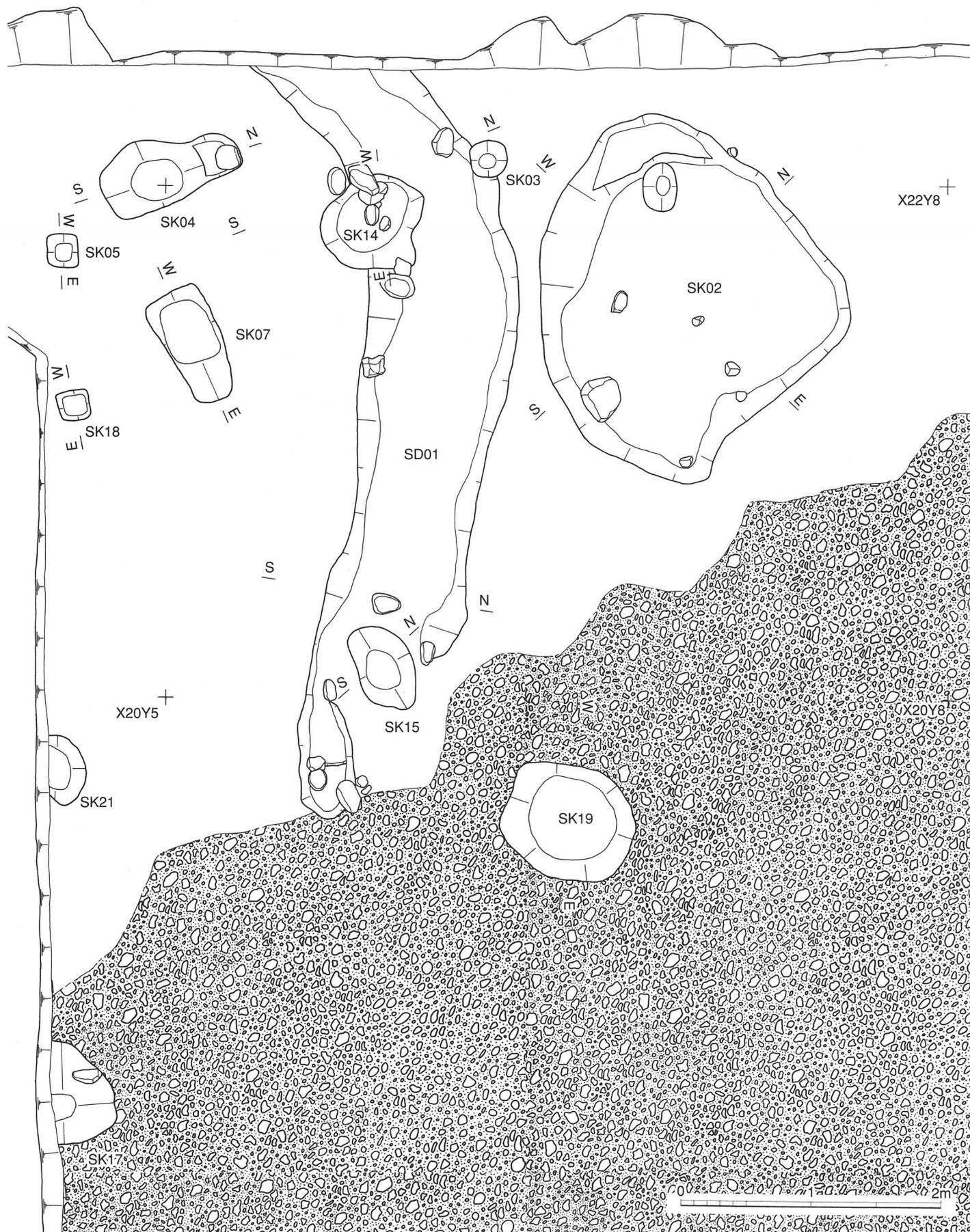
- ① 10YR3/1.5 黒褐色砂質土
- ② 10YR4/2 灰黄褐色砂質土

SD10

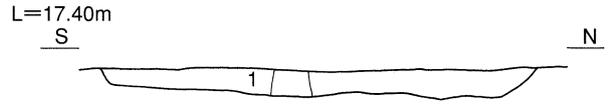
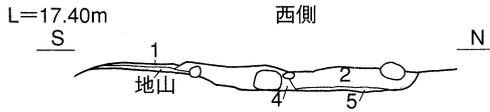
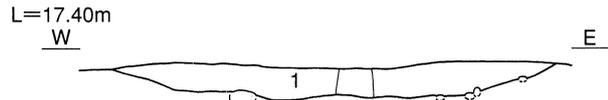
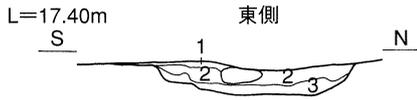
- 10YR3/1 黒褐色砂質土 (基本土層3より粘土の率高い)

全体図0 5m
基本土層図0 2.5m

第3図 調査区全体図 (1/100) と基本土層図 (1/50)



第4図 遺構平面実測図 (1/40)

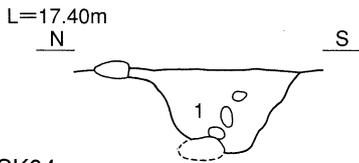


SD01

- 1 10YR4/1 + 1.7/1 褐灰色砂質土+黒色砂質土
- 2 10YR1.7/1 黒色砂質土 (上方に灰色細砂が層状に入る)
- 3 2.5Y5/3 黄褐色砂土に黒色土が網目状に入る
- 4 SK14 覆土
- 5 10YR1.7/1 黒色粘質土

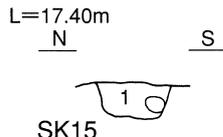
SK02

- 1 10YR1.7/1 + 4/1 + 2.5Y5/3 黒色砂質土+褐灰色砂質土ブロック+黄褐色砂土ブロック



SK04

- 1 10YR3/1 + 1.7/1 + 2.5Y5/3 黒褐色砂質土+黒色砂質土ブロック+黄褐色砂土ブロック



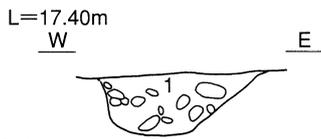
SK15

- 1 10YR2/1 + 2.5Y5/3 黒色砂質土+黄褐色砂土ブロック (礫混)



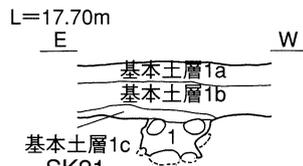
SK17

- 1 10YR3/1 黒褐色砂質土
- 2 10YR2/1 黒色砂質土



SK07

- 1 2.5Y5/3 + 10YR1.7/1 黄褐色砂土ブロック+黒色砂質土ブロック (礫多量混)



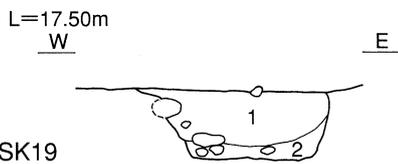
SK21

- 1 10YR2/1 黒色砂質土



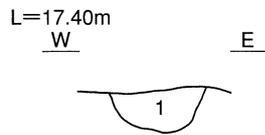
SK11

- 1 10YR2/1 + 2.5Y5/3 黒色砂質土+黄褐色砂土ブロック



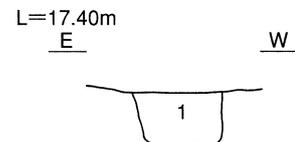
SK19

- 1 10YR2/1 黒色砂質土
- 2 10YR2/1 黒色砂土 (礫混)



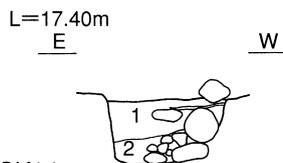
SK05

- 1 10YR2/1 + 2.5Y5/3 黒色砂質土+黄褐色砂土ブロック



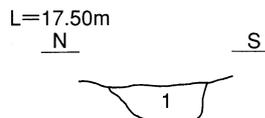
SK18

- 1 10YR2/1 + 2.5Y5/3 黒色砂質土+黄褐色砂土ブロック



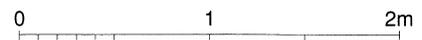
SK14

- 1 10YR2/1 黒色砂質土+砂土
- 2 10YR2.5/1 黒色砂質土 (砂の率高く、しまりなし)



SK16

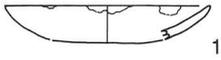
- 1 10YR4/1 + 2.5Y4.5/3 + 10YR2/1 褐灰色砂質土ブロック+黄褐色砂土ブロック+黒色砂質土ブロック



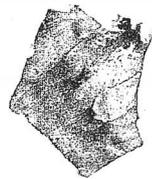
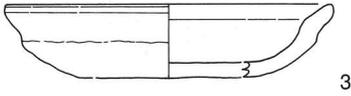
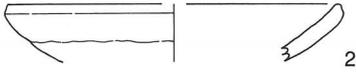
(SK05・18は1/20)

第5図 遺構断面実測図 (1/40)

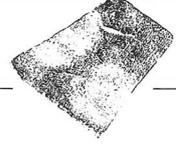
SD01



SK02 (2~5)



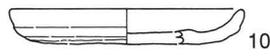
SK05



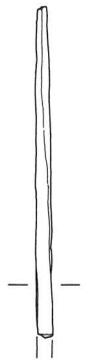
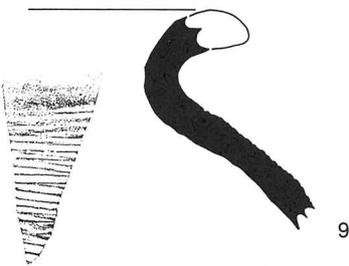
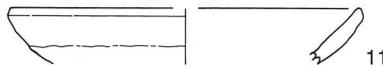
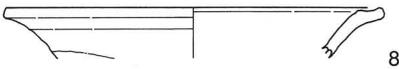
SK08



SK19 (10~12)



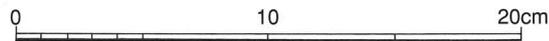
SK14 (8~9)



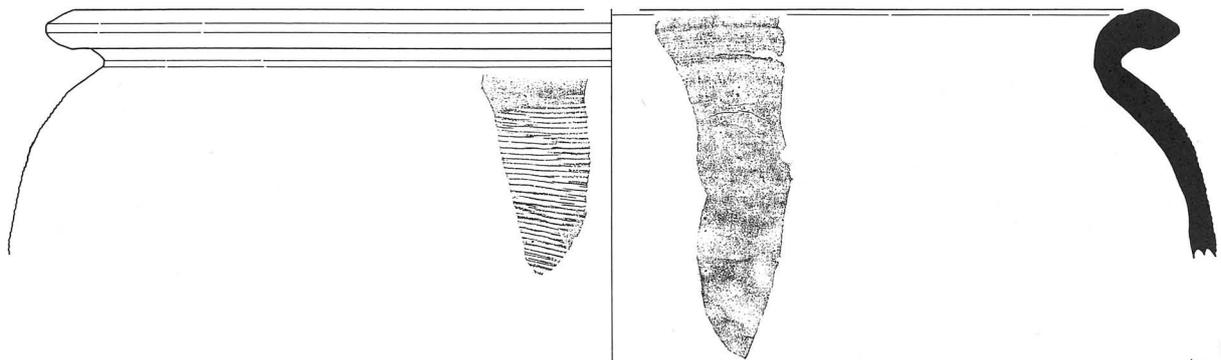
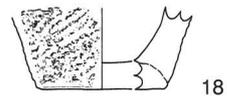
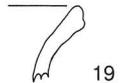
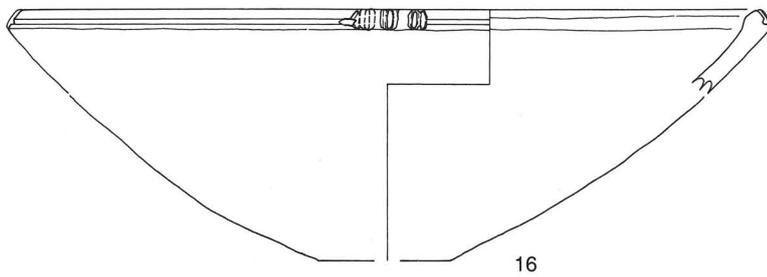
□ 13

○ 14

○ 15



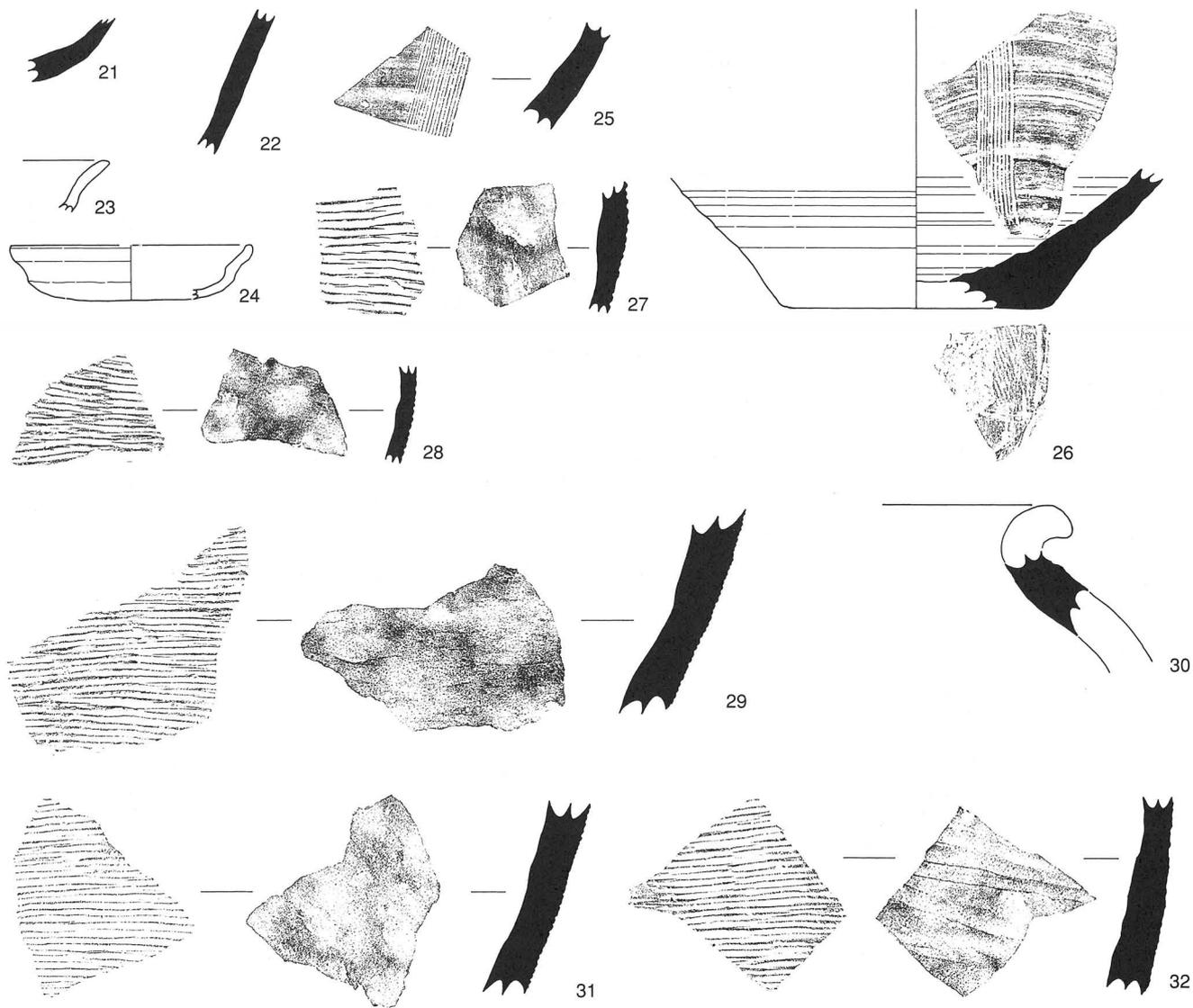
河道 (13~20)



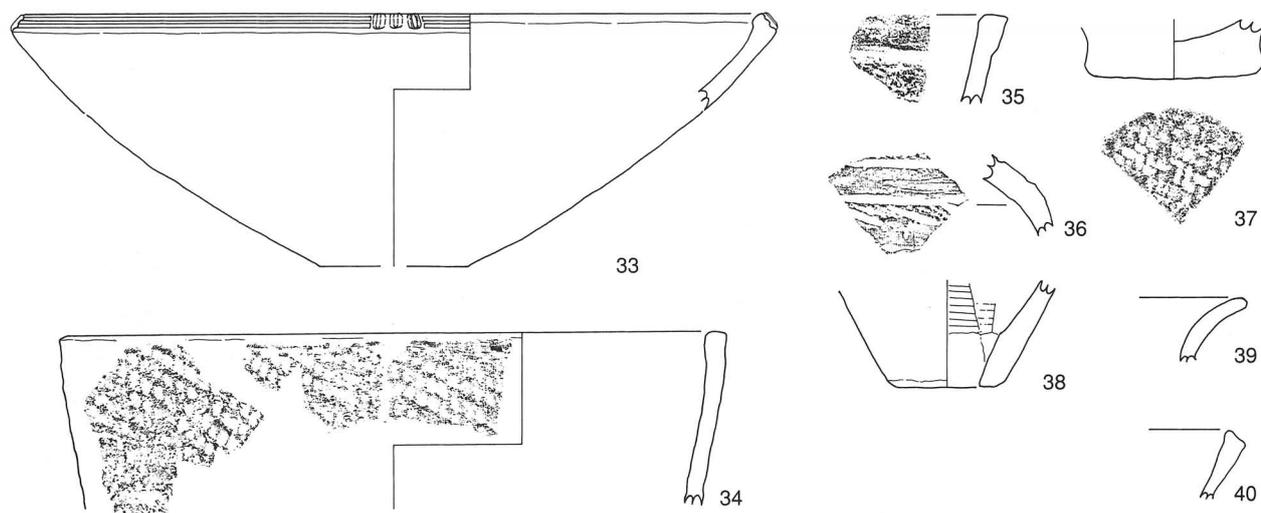
20
(S=1/4)

第6図 遺物実測図 (1/3)

河道 (21~32)

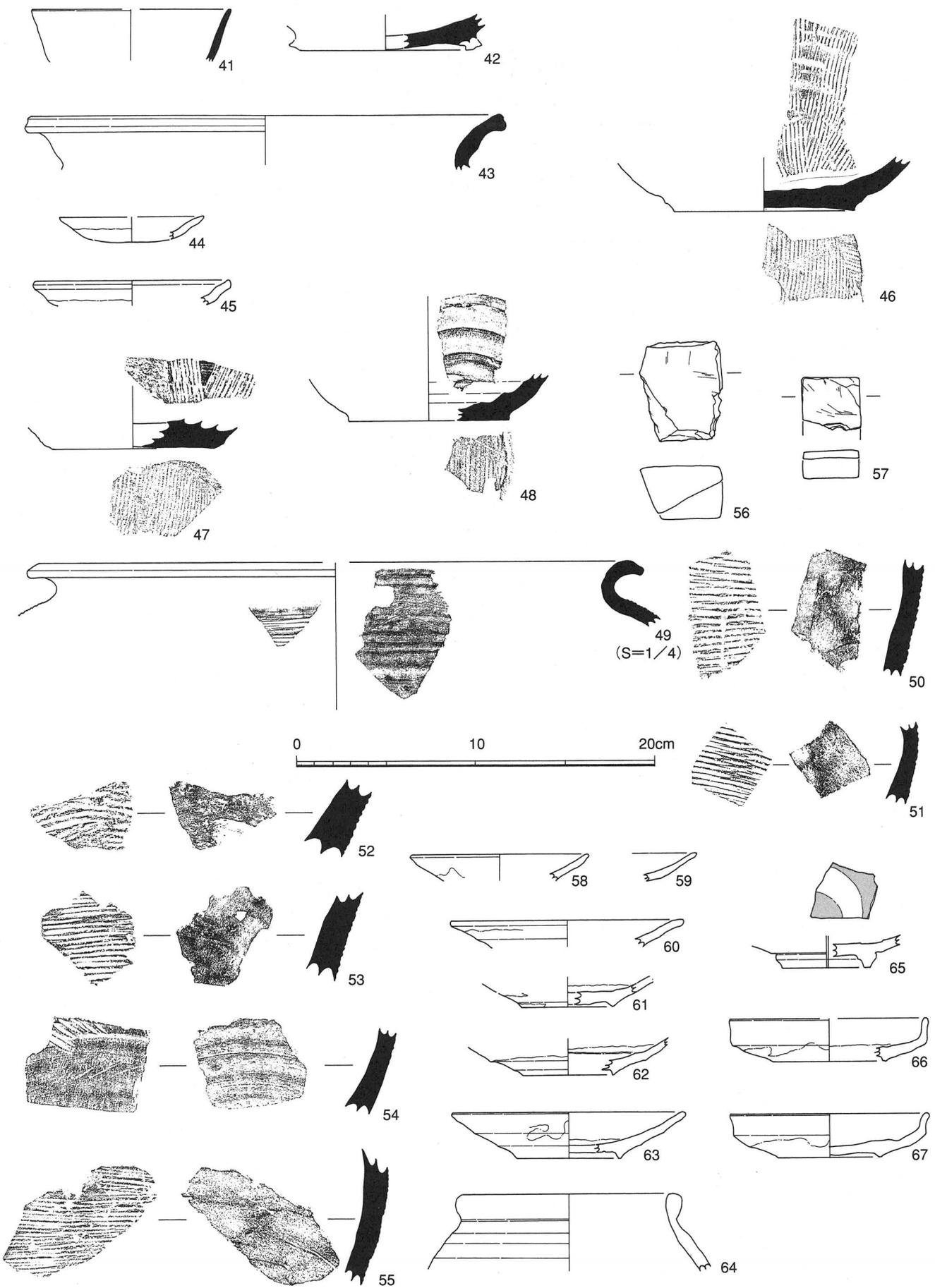


包含層等出土遺物 (33~67)



0 10 20cm

第7図 遺物実測図 (1/3)



第8図 遺物実測図 (1/3)

報告書抄録

ふりがな	とやまけんふなはしむらふるえびえいせきはつちょうさほうこく							
書名	富山県舟橋村古海老江遺跡発掘調査報告							
副書名	宅地造成に伴う発掘調査報告							
シリーズ名	舟橋村埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	8							
編著者	境 洋子							
編集機関	富山県埋蔵文化財センター							
所在地	〒930-0115 富山県富山市茶屋町206-3							
発行年月日	2002年11月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 °、′、″	東経 °、′、″	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
古海老江遺跡	富山県中新川郡舟橋村古海老江	16321	019	36° 40′ 20″	137° 20′ 30″	20020430 、 20020530	300m ²	宅地造成
所収遺跡	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
古海老江遺跡	集落跡	縄文時代後期				縄文土器		
		弥生時代後期				弥生土器		
		古墳時代				土師器・製塩土器		
		古代				須恵器・内黒土器		
		中世		掘立柱建物柱穴・土坑・井戸・溝・自然流路		土師器皿・珠洲・八尾・白磁・木製品（箸・曲物）・砥石		
		近世				越中瀬戸・唐津・伊万里		



古海老江遺跡調査区全景（北西より）



遺構集中部分（北より）



SD01断面 (東側・東より)



SD01断面 (西側・東より)



SK02東西断面 (南より)



SK02南北断面 (東より)



SK05断面 (南より)



SK18断面 (北より)

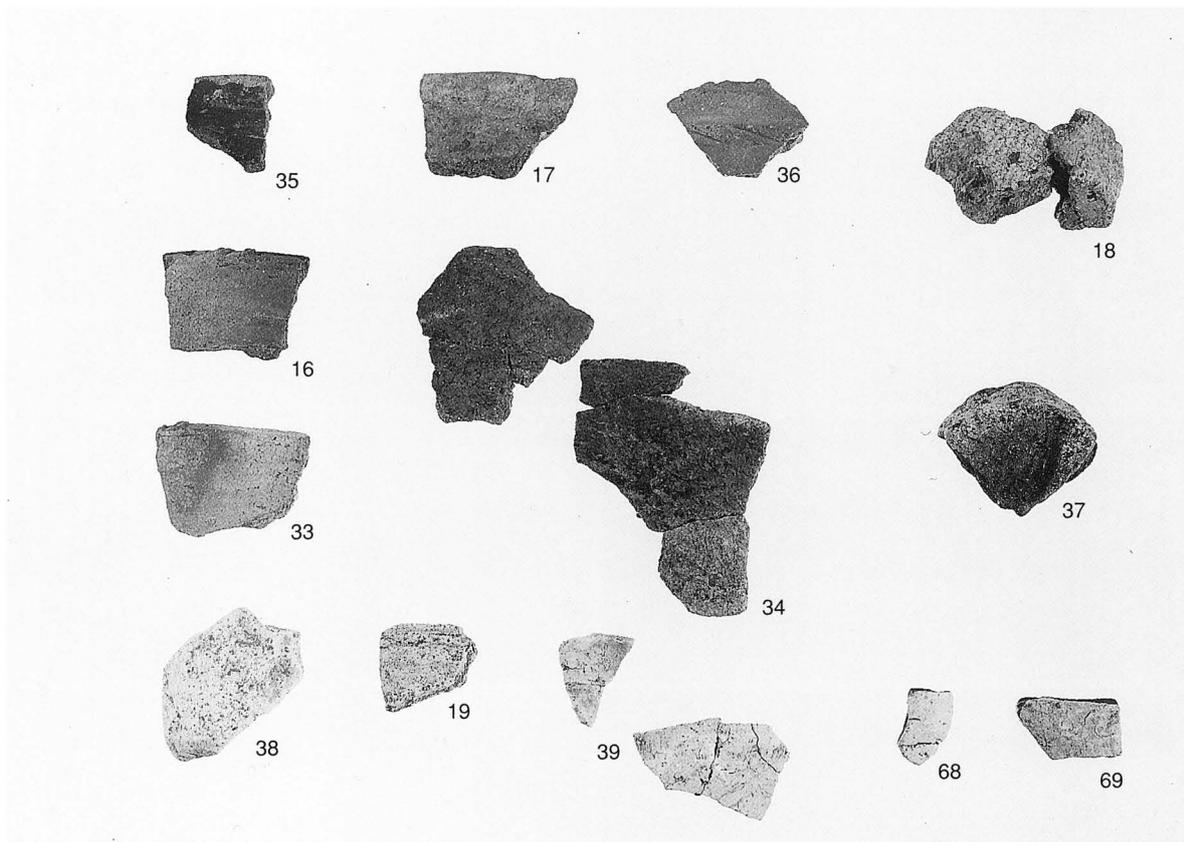


SK04断面 (西より)

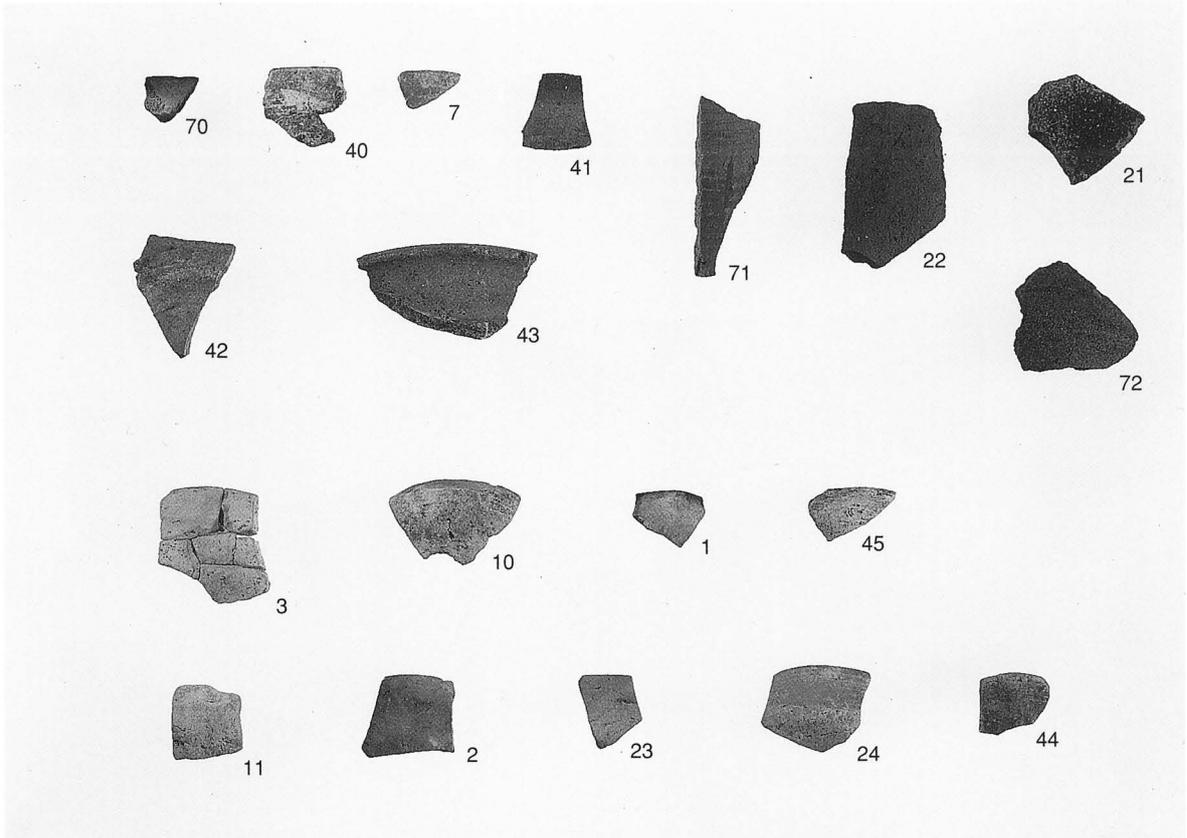


SK07断面 (南より)

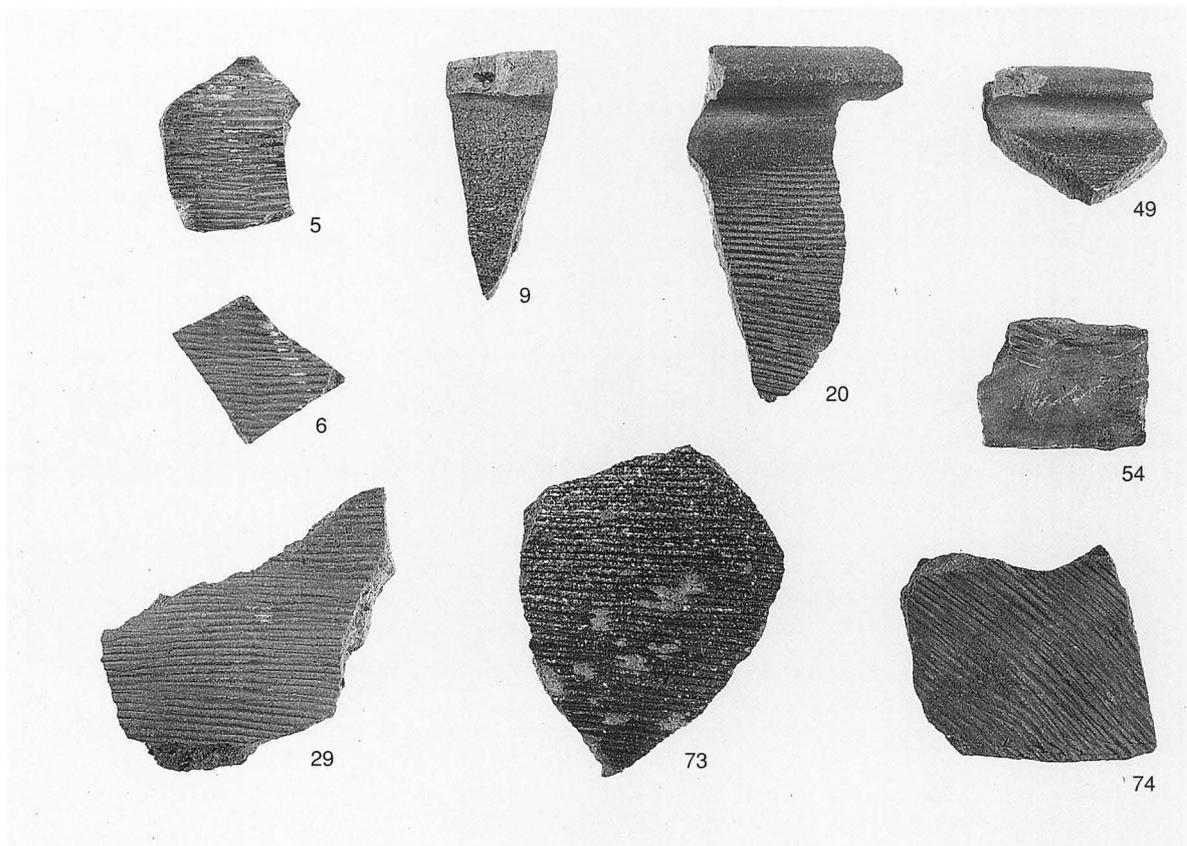




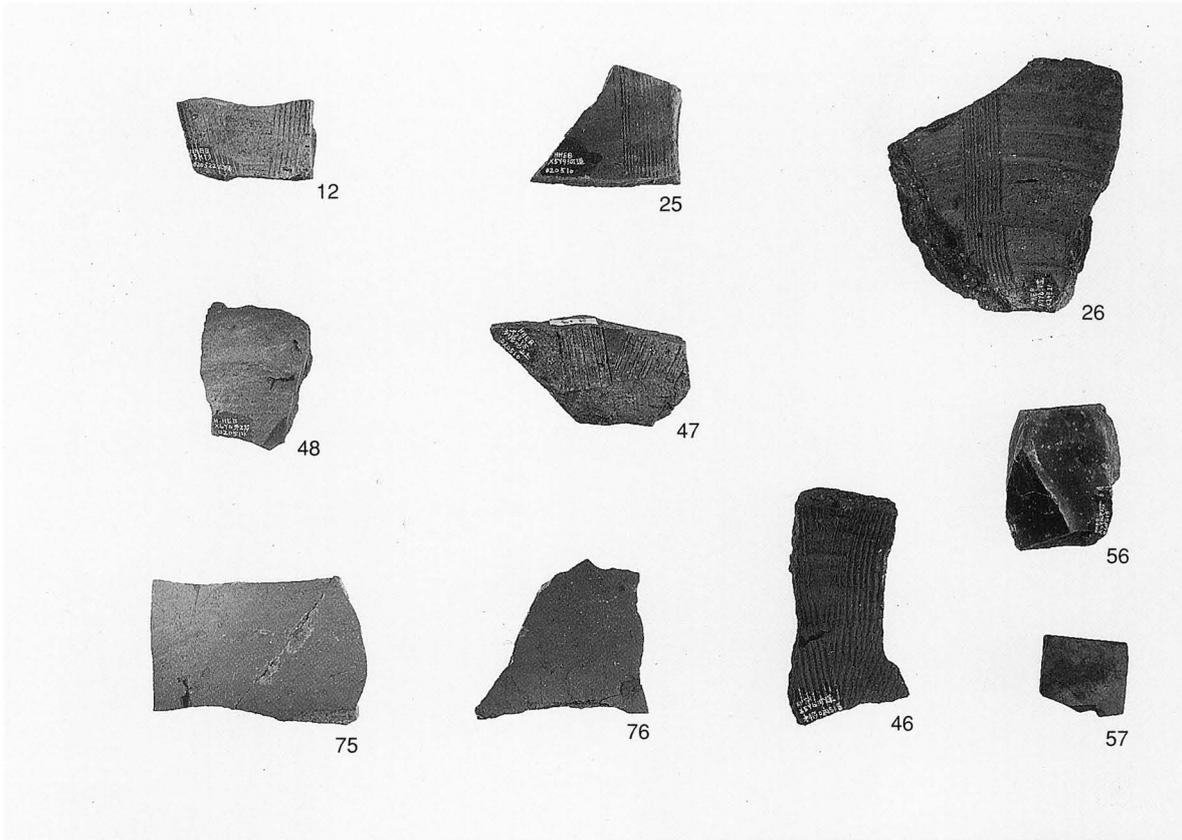
出土遺物 1（縄文時代～古墳時代）（S=1/3）



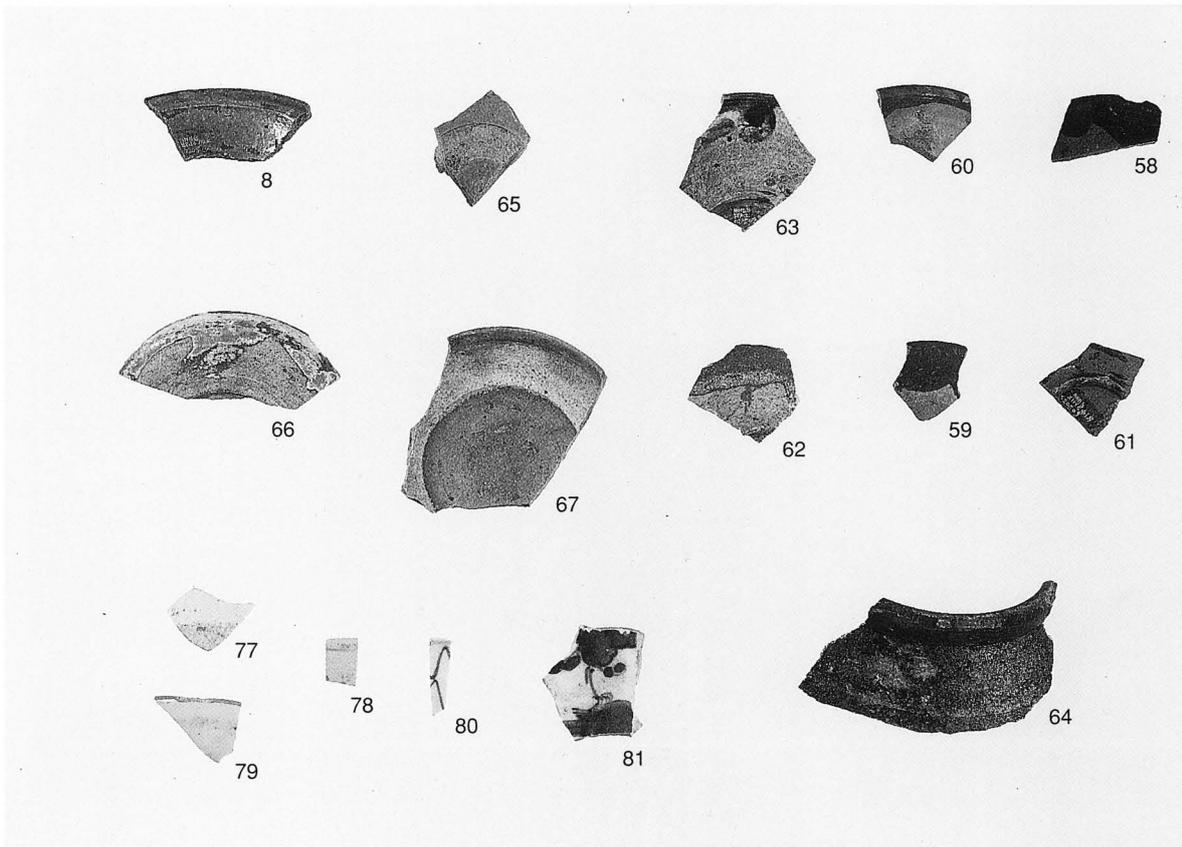
出土遺物 2 (古代 土師器・須恵器、中世 土師器皿) (S=1/3)



出土遺物 3 (中世 珠洲) (S=1/3)



出土遺物 4 (中世 珠洲・八尾・砥石) (S=1/3)



出土遺物 5 (中世 白磁、近世 越中瀬戸・唐津・伊万里) (S=1/3)

舟橋村埋蔵文化財調査報告書 8

富山県舟橋村

古海老江遺跡発掘調査報告

— 宅地造成に伴う発掘調査報告 —

発行日 2002年11月29日

編 集 富山県埋蔵文化財センター
〒930-0115 富山県富山市茶屋町206-3
T E L (076) 434-2814 F A X (076) 434-2859

発 行 舟 橋 村 教 育 委 員 会
〒930-0295 富山県中新川郡舟橋村仏生寺55
T E L (076) 464-1121 F A X (076) 464-1066

印 刷 北 日 本 印 刷 株 式 会 社

